

**「まるはちの日」  
スペシャル**  
平成22年8月8日(日)  
当日開館時間延長  
午前10時～午後8時

～幕末流行発信・名古屋～  
「日本を沸かせた那古や唄」

- ◆時間:午後6時～7時
- ◆会場:文化のみち二葉館1階大広間  
入場無料(但し要入館料)
- ◆協力:甚富華と正調名古屋甚句を拡める会  
端唄華房流華の会 華房小真社中



花房真子(甚 富華)



花房小真(甚 富生)

公演をごらんになる方「まるはち」にちなみ  
先着88名様に、冷たい抹茶を。

- ◆九鬼宗幸氏(茶道裏千家)
- ◆時間 午後4時半～5時半
- ◆会場 文化のみち二葉館1階集会室  
公演ご観覧者優先・先着88名様
- ◆呈抹茶申込み先 当日4時より受付にて呈  
茶券配布。無くなり次第終了。

春日井建と「歌人集団・中の会」の時代  
—岡井隆、そして永井陽子—

- ◆7月13日(火)～8月29日(日)
  - ◆会場:文化のみち二葉館2階展示室5・7・8
- 1980年に発足した超結社集団「歌人  
集団・中の会」は、斎藤すみ子を事務局と  
して様々なシンポジウムや研究会を行い  
八十年代の歌壇に大なるムーブメント  
をもたらしました。十年ちよっとの活動期  
間ながらエポック・メイキングであった「中  
の会」の時代と、春日井建、岡井隆、永井  
陽子の活動を紹介します。

今回、瀬戸市出身にして東区榎木町で  
生を終え、国道41号線東片端の道路に  
残された樟のことを詠った永井陽子とい  
う「うたびと」についても、ぜひ注目して頂  
きたく存じます。

—樟の木が道路の内に生えてみる  
あそこと言えばみんな顔き—

二葉館・秋の文学講座  
—作家たちが語る「私の好きな  
明治・大正・昭和の文学者」—  
(仮題)

- 地元在住の作家たちが好きな近代文学  
者あるいはその作品を語ります。
- ◆9月18日(土)～10月3日(日)計6回  
(主に土、日、祝日の午後1時半～3時)  
※25名限定。

「スタンド硝子アート展」～花と華～

- ◆10月9日(土)～17日(日)
- ◆10月17日(日)「文化のみち・貞奴&  
スタンドグラス探訪ツアー」

文化のみち二葉館「名古屋まつり」

- ◆10月17日(日) ※入館無料日

「真多呂人形展」

- ◆10月20日(水)～24日(日)
- ◆「木目込み」の無料講習会  
10月20日(水)

「歩こう!文化のみち」

- ◆11月3日(水・祝)
- ◆呈抹茶13:00～先着100名  
郷土の文学公開講座(予定)

「画家・柳瀬辰久と  
名古屋本手描き友禅・堀部満久展」  
～墨華と彩華～

- ◆11月16日(火)～11月23日(火・祝)

「川上貞奴  
愛蔵・愛用秋冬特別展」

- ◆秋・冬関連愛蔵品を中心に!  
12月予定

※イベントの予定は変更になる場合があります。

文化のみち情報BOX

クボ・セラミックドール  
木村雅子教室展

磁器粘土作品(人形・花・他小物)の数々を、  
ギャラリー・ホールを全館利用して展示しま  
す。毎日ピアノ演奏があります。

- 9月1日(水)～4日(土)11時～16時  
入館料:大人500円 小中学生:200円

■主催・お問い合わせ  
文化のみち百花百草 TEL 052-931-1036

徳川園夏の夜間開園

湖上を渡る風が涼を呼ぶ夜間開園。14、15日  
には水上ステージでのイベントもあります。

- 8月7日(土)・8日(日)、10日(火)～15日(日)  
9時30分～20時30分(入園は20時まで)
- お問い合わせ  
(財)名古屋市みどりの協会徳川園管理事務所  
TEL 052-935-8988

シリーズ「名古屋、この百年を考える」  
「みんなで唄おう大名古屋行進曲」

クロマチックハーモニカ奏者・山内秀紀さんによる「大名古屋行進曲」をはじめとした昭和初期の流行歌のミニコンサートとお話。

- 8月8日(日)14時～※開館時間延長～20時
- 主催・お問い合わせ 文化のみち榎木館  
TEL 052-939-2850

トニエコきっぷ・一日乗車券・  
メーグル1DAYチケットで  
入館料割引一般200円→160円

名古屋観光ルートバス  
メーグル



NEWS LETTER  
ふたば便り Vol.11  
発行日 2010年8月5日  
発行 文化のみち二葉館  
【名古屋市旧川上貞奴邸】  
〒461-0014 名古屋市中区榎木町3-23  
TEL&FAX 052-936-3836  
http://www.futabakan.city.nagoya.jp

※この冊子は、古紙/パルプを含む再生紙を使用しています。



文化のみち  
道遥ち化  
その三の

【主税町長屋門】東区主税町

なごや歴史ナビの会 伊藤喜雄

を知る絶好の遺構になりま  
す。長屋門には棟門に長屋を  
附属させた形式もあります。  
長屋の窓は借家として使わ  
れてきた時の改造で大きくなっ  
ていますが、「日(いわく)窓  
(既に残る)」と呼ばれる小さ  
な窓だったと考えられます。長  
屋門の梁間は二間と一定です  
が、間口は武家の石高、地位に  
より定められ、出格子付門番  
所は武家だけに許された武家  
のシンボルで、片番所か兩番  
所、門番所の大きさ、屋根の形  
や構造の違いで武家の地位と  
格式を表しました。長屋の半  
分が除かれた事で、西三軒目  
に住んでいた朝日文左衛門重  
章(100石)、海部家(100石)  
の、百石以上二百石迄の騎馬役同心  
の門の規模となっています。

NEWS LETTER  
ふたば便り  
Vol.11  
2010年8月5日発行

文化のみち二葉館北、主税筋のボ  
ケットパーク内に残される寄棟屋根  
の「主税町長屋門」は、市内で唯二江  
戸時代の位置に建つ武家門です。町  
奉行(500石)等を勤めた平岩  
家、室賀家(150石)800石)  
の屋敷門で、幕末の建築と考えられ  
解体材も転用しており梁や柱にその  
痕跡を見ることが出来ます。東側の  
長屋の半分と西側の「出格子物見」  
が付いた扉を取り除かれましたが、長  
屋の一部を門とし大扉と潜り戸を付  
け、西側に既(うまや)、東側に「出格子  
付片門番所」を備えた形式は、馬を  
持つことを義務づけられた三百石以  
上五百石迄位の武家屋敷の門構え


室賀屋敷は明治期に第三師団師  
団長の官舎となり、後に総理大臣と  
なった二代師団長、桂太郎もここ  
に住んでいました。  
内部の構造は不明な所が多く、明  
治期の改造も考えられ、門番所の門  
側には入り口が無く壁で、裏側の腰  
下に「日窓」の痕跡が残っていて、土間  
だったようです。既内の腰下は羽目  
板ではなく土壁となっている事など  
から、格を示すだけの長屋門として  
建てられたと考えられ、幕末に困窮  
した武家を偲ばせます。

太正モダニズム建築の粋を見る①  
光の芸術・匠の技が鮮やか  
二葉館大広間正面のスタンドグラス「初夏」  
(1920年・大正9年)  
デザイン・杉浦非水  
制作・宇野澤ステンド硝子

水鳥のパンや初夏に咲く花のシャ  
クナゲ、アジサイ、紅葉葉(もみじ  
あおい)などの草花が鮮やかに描か  
れています。また、その硝子の表情  
の多様さや硝子を2枚重ねて深い色  
をだしている技法などで、繊細で自  
由な表現のスタンドグラスとなっ  
ています。

デザイナーは福沢桃介の妹でアララ  
ギ派の歌人であった翠子(すいこ・  
1885～1960)の夫で、三越  
呉服店(現・デパート)のポスター  
やタバコの「光」、「カルピス」な  
どのパッケージのデザインをした杉  
浦非水(すぎうらひすい・1876  
～1965)。

福沢桃介の義理の弟という繋がりがあ  
ってデザイナーをてがけたよう  
です。杉浦は多摩帝国美術学校(現多  
摩美術大学)の創設に参加し、商業  
美術の先駆けとして現代日本のグラ  
フィックデザインの礎を築いた重要  
人物の一人です。  
参考資料 『日本のスタンドグラス  
その歴史と魅力』(2006年・伝  
統技法研究会)



平成十六年(2004)都市基盤  
整備公団(現UR)により、川崎市の  
「日本民家園」に移築された佐地家  
(石川家)の侍長屋を参考に復元  
的な改修を行い、門番が詰めた門番  
所を再現しました。内部の公開、部屋  
の有料貸出しも行い、既(うまや)には、  
元禄初期の城下図(普光寺蔵)や長  
屋門の説明パネルを展示しています。



出格子付片門番所